

82. 集まる広場、交流する商店街

0910920016 井田良平
指導教員 市川尚紀准教授

1. 設計主旨

姫路市は、県内第二位の商工業と人口を擁する都市であり、播磨地方の中心都市である。また、世界遺産である姫路城があることから、国内外から毎年多くの観光客が訪れている。そのため、姫路市街には非常に多くの人が集まり、姫路駅から姫路城の間の城下町を通る商店街には、買い物客だけでなく、観光客や学生、会社員等様々な人が商店街を利用している。人通りが多い商店街通りであるが、通りの途中に一息つけるような休憩スペースやアメニティ要素が不十分な事や、多くの人にとっては通過するための通路として利用されているため、人を留め、それぞれの店舗に対して興味を持たせる能力が乏しいと言える。また、人通りが多く歩きながらではゆっくりと人と話が出来ず、人と人との交流が生まれ辛い。

そこで本計画では、姫路市における城下町の人通りが多く、流動性が高い既存の商店街に加え、足を止め、休憩しながらお店を見て、知って、利用できるよう、広場空間に休憩や集い、交流の場としての機能を取り入れ、それを商店で囲むことにより、滞留性を持つ商店街を形成していく。そして、既存の商店街による人の流れを新しい商店街に集まるようにすることで、そこに様々な人が集い、交流する場となり、新しい行動の起点となるような場所になるよう提案していく。

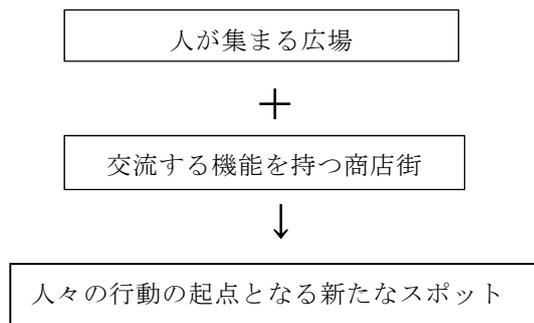


図1 コンセプトダイアグラム

2. 計画地概要

兵庫県姫路市の姫路駅と姫路城を繋ぐ大手前通り沿いにある一角を計画対象地とする。姫路城は駅から北へ約 1 km に位置しており、多くの観光客は徒歩で姫路城

に向かう。そのため、大手前通りとそれに並行しているみゆき通り商店街、本町商店街通りを通ることになる。もちろん観光客以外の地元住民も利用するため、これらの通りには常に多くの通行人が見られる。



図2 計画地配置図

3. 計画内容

3.1 建築計画

(1) 壁

長さ 7 m、高さ 2, 5 ~ 5, 5 m、厚さ 30cm の壁を設置する。この壁は 1 本ではただの壁でしかないが巨大な壁はひとつの象徴としての存在感を持っていると言える。

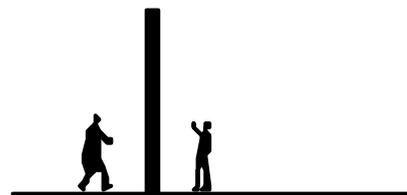


図3 利用する壁

It collects and interact open space shopping center

IDA Ryohei
環境設計研究室

(2) 壁の配置

合計 64 本の壁を設置していくことで商店街としての形を構成する。曲線状に配置していくことで商店街内に 4 つの小広場と 1 つの大広場をつくりだす。

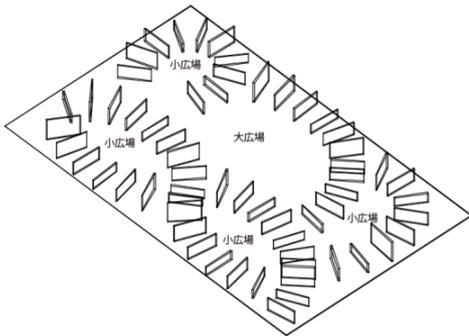


図 4 壁柱と広場の配置

(3) 建物の構成

壁の上に床スラブを載せ、両端の 2 階の壁に接合し、1 階と 2 階の空間を構成する。床スラブを 1 階の壁柱と 2 階の壁柱により支え、2 階の壁柱が 2 つの床スラブを支えることで建物を繋げ、支えることができる。

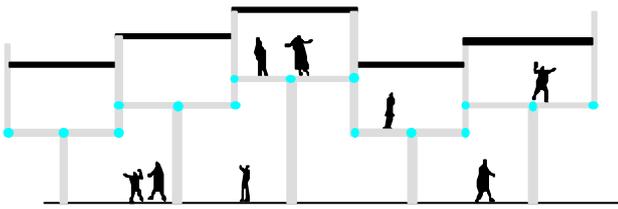


図 5 2 階床スラブの支点

3.2 広場の利用

広場の管理は、広場の周りの店舗で一つのグループとし、それぞれが共有し広場の管理を行い、店舗の前でオープンカフェや店舗前販売、イベントを行うことでそれぞれの広場を活性化させていく。小広場ではグループ単位で広場の利用について決め、普段の利用方法から催し事までの管理を行う。大広場は商店街全体の催し事を行うスペースとして利用する。

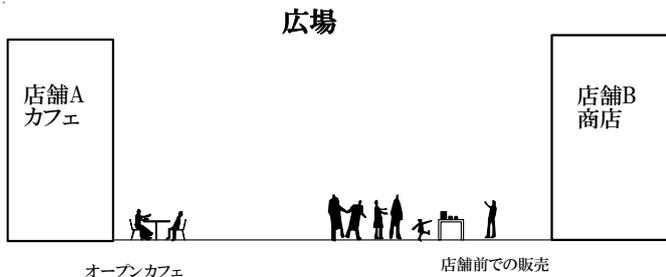


図 4 広場の利用例

3.3 導入する機能

基本的に壁柱を壁とする 1 階に商店を設け、壁柱の上に床を配する 2 階に住居または宿泊施設を配置する。1 階の商店の機能として、飲食店、服飾品店、本屋、食料品店、美容室、玩具屋、ギャラリー、土産屋、観光案内所等を取り入れる。また、2 階に宿泊施設を配するため、1 階に受付を行う商店を配置する。2 階の宿泊施設には外国人やバックパッカーの利用を想定し、交流スペース等を設けた簡易宿泊施設を設け、旅行者の交流の場としての機能を商店街付加させることで文化の交わるスポットとなる。

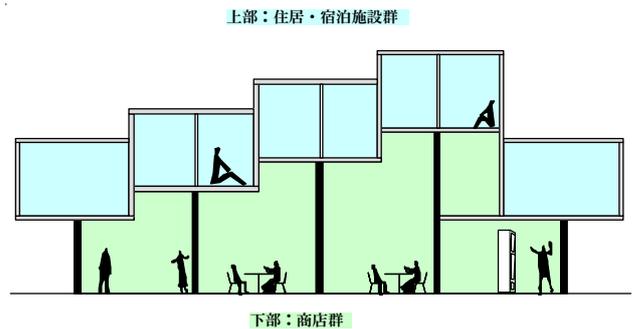


図 5 建物の利用

4. 総括

既存の商店街の利用者は直線に伸びたアーケードを歩きながら利用しているため、視界は前方の狭い範囲しか捉えておらず、店舗の内容を把握できない。また、アメニティや休憩できるようなスペースが不足しており、人々が商店街に魅力を感じていないのが現状である。本計画はこういった問題点を補うための商店街を提案したもので、既存の商店街利用者の休憩地点や集合地点、また旅行者に対しては宿泊の拠点となるような商店街の計画が目的である。そこで商店街に広場の要素を取り入れ、商店街内に人を集めさせる役割を持たせ、利用者はこの広場で休息や交流、また 400m 程先に見える姫路城の鑑賞をしながら商店街を利用できる環境を作ることによって、既存の商店街の問題点を補える商店街となり、商店街の魅力の人々に感じてもらえることに期待する。

建築概要

所在地：兵庫県姫路市

主要用途：商店街

構造：混構造 (RC+木造)

規模：2、3 階建て

敷地面積：4335 m²